

ご挨拶

大分県 農林水産部 審議監（林政担当） 森迫 常德



大分県の森林・林業について

みなさん、こんにちは。大分県庁の農林水産部で林業に関する仕事の総まとめをしている、審議監の森迫です。県庁の林業職員を代表して、ご挨拶申し上げます。

さて、みなさんは大分県の森林について、どのようなイメージをお持ちでしょうか。本県は県土の7割を森林が占めており、これは日本の森林率とほぼ同じです。それらの森林の多くが、いわゆる“伐り時”を迎えており、資源として有効に活用しようと、伐採量は年々増加しています。

本県の林業はこの豊富な森林資源に支えられ、全国の10年は先を走っているであろうフロンティアにいます。まさに『林業成長産業化』が手の届くところに来ていると感じます。

一方、フロンティアであるがゆえに、全国に先駆けて課題が浮き彫りになっています。伐採が増加していますが、その後再び森林にするための再造林を確実にするにはどうしたらよいか。人手や苗木をどのように確保するのか。労働環境の改善や、造林の機械化など、これまで取り組まれてこなかった分野への挑戦が必要です。

次に、木材産業分野ですが、大型の合板工場が県内に竣工するなど、木材を余すことなく使い切る需要先が県内で確保できるようになりました。今後は、木材の付加価値を高めるとともに、海外などの新たな需要先の開拓も強化していかなければなりません。

さらに、特用林産分野では、乾(ほし)しいたけの生産量が全国シェアの4割を占め、量・品質ともに日本一であり続けています。一方で、一般の家庭で使われなくなりつつあり、全国的に需要量が減少しています。乾しいたけは本県の大切な資源であるだけでなく、そのうま味は和食に必要不可欠なものです。量・品質ともに日本一である本県が、日本全体のしいたけ産業を牽引し、需要の拡大と生産量の確保をしていかなければ、日本の大切な文化が一つなくなってしまう、そういう危機感をもって取り組んでいます。

このように、大分県の森林やその関連産業をとりまく課題はとても幅広く、県の林業政策の役割が非常に重要です。

大分県で働くこと

もう40年近く前のことになりますが、私を大分県の林業職員の道に導いてくれたのも、この豊かで多様な森林です。初めて日田の山を見たときには、整然と植えられたスギ林に先人の労を感じ、とても驚いたことを今でも覚えています。一方、私の出身地は椎茸栽培のためのクヌギ林が多く、葉の落ちる冬には凜とした静寂が広がります。

このような豊かで多様な山づくりをすることに携わりたいと、大分県の林業職員になった次第ですが、仕事だけでなく、山登りなどのアウトドアや椎茸にジビエなど、私生活でも山から多くの恩恵を受けています。

林業職を志すみなさんへ

ここまで書いてきたとおり、大分県には魅力も課題もたくさんあります。いずれの分野でも最先端にいるがゆえの苦勞です。逆に言えば、「誰もやったことのない」新しい工夫やアイデアを実現する場です。

本県は、知事をはじめ、このような「誰もやったことのない」目新しい政策の実現が大好きな職員が多くいます。皆さんも、本県で新しいこと、おもしろいことを考え、実行し、森林・林業・木材産業の発展と一緒に取り組んでみませんか。

